No title available

Publication number: JP4500328 (T)
Publication date: 1992-01-23

Inventor(s): Applicant(s): Classification:

- international: A61F2/06; A61F2/82; A61M25/00; A61F2/06; A61F2/82; A61M25/00; (IPC1-

7): A61F2/06

- European:

Application number: JP19900509878T 19900615

Priority number(s): WO1990US03322 19900615; US19890367716 19890619

Abstract not available for JP 4500328 (T)

Data supplied from the esp@cenet database — Worldwide

⑩日本国特許庁(JP)

⑩ 特 許 出 願 公 表

四公表特許公報(A)

平4-500328

❸公表 平成 4年(1992) 1月23日

Sint. Cl. '

A 61 F 2/06

識別記号

庁内整理番号 7603-4C

審 査 請 求 未請求 予備審査請求 未請求

部門(区分) 1(2)

(全 10 頁)

❷発明の名称

大動脈用継ぎ木、大動脈瘤を治療する埋込み装置及び方法

類 平2-509878 2011

666220.H. 願 平2(1990)6月15日 **函翻訳文提出日 平3(1991)2月14日**

極国際出願 PCT/US90/03322

囫国際公開番号 WO90/15582

優先権主張

991989年6月19日 9米国(US) 30367,716

@発 明 者 トラウト ヒユー, エイチ。ザ アメリカ合衆国20008 ワシントン ディー。シー。オードウエイ

ストリート, エヌ. ダブリユ. 3037

サード 勿出 頭 人 トラウト ヒユー, エイチ. ザ サード

アメリカ合衆国20008 ワシントン ディー シー オードウェイ

ストリート, エヌ、ダブリユ、3037

砂代 理 人 弁理士 浅 村 솶 外3名

動指 定 国

AT(広域特許), AU, BE(広域特許), CA, CH(広域特許), DE(広域特許), DK(広域特許), ES(広域 特許), FR(広域特許), GB(広域特許), IT(広域特許), JP, KR, LU(広域特許), NL(広域特許), S E(広域特許)

請求の銃囲

1. 大動脈の部分の吻合をする大動脈維ぎ木であって、 頭部増及び尾部増を有しかつ糖糠を有する大動脈維ぎ 水袋ほと、

前記大動脈競響大装置の前記頭部橋及び風部機に取け けられ前記大動紙推ぎ木装置を前記大動脈に固定する推 数の取付け装置を有しており、抑記取付け装置は、前記 大動級継ぎ木装置に取付けられ剪記大動脈継ぎ木装置の 胸紀翰線にほぼ平行に指向したペース装置と前記ペース 装置に取付けられ前記大動脈推ぎ木装置からほぼ径方向 外側に延びた支柱装置と、抑配触線に対しほぼ平行に指 向し前配支柱装置の末端に取付けられ前配大助脈を通過 し前記継ぎ木袋園を前記大動脈に固定するファク袋籠を 有していることを特徴とする大動脈維ぎ木。

- 2. 請求の範囲第1項記載の大動脈推ぎ木において、前 紀大助脈椎ぎ木袋促がほぼ円筒状であることを特徴とす る大助脈維ぎ木。
- 3. 請求の範囲第1項記載の大動脈維ぎ木において、前 記大動脈推ぎ木袋度が弾性可挽性材料を存していること を特徴とする大動脈維ぎ木。
- 4. 請求の範囲第1項配数の大動脈維ぎ木において、諄 紀大助蘇趙ぎ木袋屋が体液に対して不活性な材料を有す ることを特徴とする大動脈維ぎ木。
- 5. 請求の范囲第1項記載の大動脈推ぎ木において、前

記ファク袋ほがやじりファクを有していることを特徴と する大動解推営水。

- 6、請求の範囲第1項記載の大動脈推ぎ木において、前 記大動脈排ぎ木装置がリテーナーリング装置を有してお り前記大動脈機ぎ木の前記第1及び第2の増を前記大動 豚の部分に係合当接して保持することを特徴とする大動 践 辫 考 木。
- 7. 大助脈の部分を吻合させる大助脈椎ぎ木であって、 第1及び第2の場を有するほぼ円筒状の大動脈維ぎ木袋 置と、前記大助照批さ木袋園の前記第1及び第2の匈部 に取付けられ前記大助脈維ぎ木袋屋を前記大動脈に固定 する複数の取付け袋匠とを有しており、前記取付け袋庫 は、前記大助脈維ぎ木袋園の長手軸線とほぼ平行に前記 大動脈維ぎ木装蔵に第1及び第2の幅で取付けられたべ ース部封と、前配大動脈椎ぎ木袋置から径方向に延びて 前記ペース部材に取付けられた支柱装置と前記大助脈を 食通して前記大動脈に前記推ぎ木袋のを固定する前記支 住袋屋の末端に取付けられたフック袋屋とを有し、前紀 ファク弦運がやじりファクを有していることを特徴とす る大助級群を木。
- 8. 請求の範囲第7項配載の大動脈推ぎ木において、前 記大動駅推ぎ木装置が弾性可挽性材料を有していること を特徴とする大助脈斑ぎ木。
- 9. 請求の范囲第7項記載の大動脈機ぎ木において、前 記大助眼椎ぎ木装置が体液に対して不活性な材料を有す

ることを特徴とする大助脈維ぎ木。

10. 頭求の範囲第7項記載の大動脈推ぎ木において、 到記大動脈推ぎ木装置が可記大動脈の結合部に初記第1 及び第2の端部を係合保持するリテーナーリング装置を 有していることを特殊とする大動脈推手木。

12. 関求の範囲第11項記載の大動脈離ぎ木において、 前記大動脈椎ぎ木袋屋が弾性可換性材料を有しているこ とを特徴とする大動脈椎ぎ木。

13、諱求の範囲第11項記載の大動脈離ぎ木において、

可記りテーナーリング装成は圧縮に対し前記りテーナーリングの後を弾性的に保持し互いに引っかかる一連の短い部分を育していることを特殊とする大動脈能ぎ木。

14.バルーンカテーテル及び大動脈椎ぎ木を用いて大 動解瘤を治療する方法において、前記動脈瘤に投影剤が 満たされたカテーテルを、亜影響されていない血管狙撃 に当接するように前配動脈瘤の直上の基端部まで挿入し、 前記動脈瘤の直上の基端部の大動脈の径を計削し、前む 投影前で満たされたパルーシカテーテルを引いて、影響 されていない血管組織に当接する動脈瘤の直下の末端部 に悪影響された血管にカテーテルを再位度決めし、前配 投影剤で満たされたパルーンを再郵張させ前配動脈瘤の 直下の基端部の血管の径を計測し、耐配投影柄で満たさ れたパルーンカテーテルを除去し、電波映像技術により 前記頭部と尾部との距離を測定し、前記頭部及び尾部に おける前記大動脈のサイズよりほぼ1~10mm大きい 写 L 及び第 2 の 端部を育する機ぎ木をダブルパルーンカ テーテルにそって挿入し、頭部パルーンの末端から前記 頭部パルーンを駆らませ前記継ぎ木の頭部の末端部のフ 契砂 ックを前配大助脈と整合させ、前記頭部パルーンが完全 に膨らみ前配基端部のフックが前配頭部の基端部におけ る前記大動脈と整合するまで前記頭部パルーンの末端部 から前記頭部パルーンを整張させつづけ、尾部パルーン を取らませながら前記頭部パルーンの影弦を維持し、向 妃鼠部バルーンの基礎部から前記尾部バルーンを膨らま

明期都

大動脈用離ぎ木、大動脈瘤を治療する壁込み袋健及び 方法

本発明は大動脈維ぎ木、大動脈瘤の治療に用いられる 装置及び方法に関するものである。動脈瘤は、病気また は他の要因による血管の弱い部分における血管壁の趣ら みである。動脈瘤が治療されないと、動脈瘤が破裂し血 液が液出することになる。

大動脈の動脈瘤は血管の動脈瘤で最も多いものであり 生命の危険に関わるものである。大動脈は循環器系に血 液を供給する主たる動脈である。大動脈は心理の空間か ら上方に延び心理の後ろ側に曲かり胸郭及び腹部を降下 する。腹部の大動脈は2つの側部血管を腎臓血管に送っ ている。腎臓血管の下方において、腹部大動脈は第4 展 他のレベルまで続いている。大動脈は腸骨動脈に分かれ ている。 路骨動脈は血液を下熔部及び会陰部まで供給し ている。

大動脈瘤は腎臓動脈と脳骨動脈との間の腹部動脈に発生しやすい。腹部動脈のこの部分は特に弱いもので動脈瘤になりやすい。この部分の直径4cmを越える大動脈瘤は悪いものである。治療されないと動脈瘤は破裂し、急酸な大出血を起こす。

腹部動脈の動脈瘤は特に死亡率の高いものである。従

特表平4-500328 (3)

って現代の医学基準では疑節動脈瘤の手術は緊急に行なっている。 腹部外科手術自体は身体に大きなストレスを与える手術である。大動脈瘤の死亡率は極めて高いものであるが、大動脈瘤を治療する外科的処理に関する死亡形及が専患事よない。本発明は、動脈瘤のある腹部のある部分をパイパスまたは交換させることである。 特に合成チューブのような人口装置がこの目的のために使われる。この維ぎ木は動脈瘤を循環器系から排除し動脈瘤のある弱い部分の圧力とストレスを取除くものである。

外科手段に動脈瘤の治療は主たるものである。さらに 実質的な福思率は手術を必要とし長い回復期間が必要で ある。最後に手術は高い死亡率を伴う。しかしながら外 料的手術は高い危険性にも係らず動脈瘤の場合は必要と されるが腹部外科のストレスに患者が耐えられない場合 もある。腹部外科手術に関する死亡率及び罹患率を低端 することが望まれている。

母近は、腹部外科手術の危険性をなくした大動脈瘤を手術する方法が発達している。これらの例として米国特許事4.562.596号(1986年1月7日発行)「大動脈機ぎ木、腹部大動脈瘤の治療装置及び方法」及び米国特許事4.787.899号(1988年11月29日発行)「内部機ぎ木装置、システム及び方法」が知られている。

上記米国特許第4.562.596号は推ぎ木の安定

米国特許第4.787.899号も大動駅を炼験する 様々な手段を開示している。これらは、バルーンカテー テルシステムを用いた様々な推ぎ木袋園、ニチノルコイ ルの使用および外科的技術である。

従って近年ある技術は大動脈瘤を移場する外科的手術を介したストレス、死亡率及びその危険を減少させるように発展しているが現在まで開発された技術は環境系の圧力やストレスから大動脈の影響された部分を排除したり大動脈を効果的に治療することができない。従来の袋健は信頼性のある、かつ迅速な動脈瘤パイパスを提供することができない。

従って本発明の目的は動脈瘤の腹部外科手術に関する よりも概念事や死亡事をより低減させる大動脈瘤の治療 方法を提供することである。

本発明の他の目的は腹部外科手術に耐えられない患者 の大動脈瘤を治療する手段を提供することである。

本発明の他の目的は広範囲な外科手折による死亡事や 歴史事を低減することである。

本発明の他の目的は緊急手術として大動脈瘤から患者 を迅速に守る手段を提供することである。

本発明の他の目的は主たる外科手術をすることなく取 部動脈瘤を治療する手段を提供することである。

本発明の他の目的は設部動脈瘤を外科的に手術する場合の死亡率や歴史事を低減する設部動脈瘤を治療する設 健を提供することである。 性及び弾性に貢献する理數の支柱を有する可挽性チューブ材を有する大動脈椎ぎ木を開示している。これらの支柱は、動脈瘤の上の動脈の内部に固着されるかかり部をその上端に有する曲がったファクを備えている。上記米 固特許第4,552.596号の椎ぎ木は当該特許に関示された管伏袋屋を用いて挿入される。

しかしなから上記米国特許は動脈の継ぎ木の基準だけを固着するものである。上記特許は血管の下方へ向から流れが継ぎ木の末境を保持し末端を機械的に止める必要がない。この点について上記米国特許のコラム6、24~27行をお照されたい。しかしなから腹部動脈の血流方向に保けるりには20年末の血流方向に保けられないと生じてしまう。遠部の取付けなしに上記特許の装置は血圧に関係する力とストレスから動脈瘤のある弱められた血管壁を効果的に排除することはできない。

上記米国特許第4、787、899号は機ぎ木の基場に取付けられた複数の針を用いた機ぎ木システムを開示している。この特許の針はバルーンカテーテルにより大動脈壁に呼え付けられる。しかしながら米国特許第4、787、899号は機ぎ木の幅に取付けられた針を開示している。米国特許第4、787、899号には動脈瘤のレベルよりも低い来場大動脈に継ぎ木を優極的に取付けることは示されていない。

本発明の他の目的は動脈瘤の外科手術に関する治療に おける費用を低減する腹部動脈瘤の手術方法及びシステ ムを提供することである。

本発明の付加的な目的は、医療費、リハビリテーション、磁果率及び回復時間を考慮して里者に対する費用を 低減する腹部動脈瘤の手術方法及びシステムを提供する ことである。

発明の要約

明細書に記載されているように、本発明の大助騒殺者木はパルーンカテーテル及び大動騒殺者木を用いて大動騒殺を循環から安全に除去する方法に用いられる。本発

明によると阿記動脈瘤に投影剤が満たされたカテーテル を、悪影響されていない血管組織に当接するように前記 動脈瘤の直上の基端部まで挿入し、前記動脈瘤の直上の 萎増部の大動脈の往を計測し、前紀投影剤で満たされた パルーンカテーテルを除去し、影響されていない血質組 礎に当接する動脈瘤の直下の末端部に悪影響された血管 にカテーテルを再位歴決めし、前記動脈瘤の直下の基端 部の血管の径を計測し、前記投影剤で満たされたバルー ンカテーテルを除去し、電波映像技術により前記基端部 と前記末端部との間の距離を耐定し、前記基端部及び末 蟾部における前記大動脈のサイズよりほぼ 1 ~ 4 m m 大 きい第1及び第2の端部を育する誰ぎ木をダブルバルー ンカテーテルにそって挿入し、頭部パルーンの末端から 前記頭部パルーンを彫らませ前記継ぎ木の頭部の末端部 のフックを前起頭部大動脈と整合させ、前記頭部パルー ンが完全に膨らみ前記基端部のファクが前記頭部の基端 部における前記大動脈と整合するまで前記頭部パルーン の末端部から前記頭部パルーンを影張させつづけ、尾部 バルーンを膨らませながら前記頭部バルーンの膨張を推 持し、前記尾部パルーンの基端部から前記尾部パルーン を駆らませ前記継ぎ木の尾部の前記基増位度のフックを 前記尾部における大動脈と整合させ、前配尾部パルーン が完全に膨らみ前記末端のファクが前記尾部大動脈の前 記末端の大助脈と係合するまで前配鼠部パルーンの前記 萎竭部から前記尾部パルーンを膨らませ続け、前記ダブ

第8図は尾部バルーンが彫張したときの動脈壁を取付け装置が貫通することを示す継ぎ木とダブルバルーンカテーテルシステムと動脈瘤の下部の尾部腹部動脈の冠状図である。

第9回は取付け装置が動脈壁を通過したときの尾部パルーンの郵張中の伏穏を示す第8回の継ぎ木と頭部パルーンの冠状図である。

第10図は頭部及び尾部の取付け装置が動脈壁に取付けられダブルバルーンカテーテルシステムが除去されて 動脈瘤を除いた後の本発明の大動脈維ぎ木の冠状図である。

第11図は本発明のリテーナーリングの上面図である。 第12図は本発明のリテーナーリングの変更例を示す 斜視図である。

第13回はバルーンカテーテルと頭部リテーナーリングの取付けを示す本発明の大動脈 継ぎ木の頭部を示す 冠状図である。

第1:4 図はバルーンカテーテルと尾部リテーナーリングの取付けを示す本発明の大動解機を木の尾部の冠状図である。

第15回は大助駅窓を除去する大動駅に埋め込まれた 継ぎ木を示す本発明の大動駅継ぎ木の冠状図である。

本発明の推ぎ木及び大動駅推ぎ木を取付ける装置及び 方法は以下の図面により辞述されるが本発明はこの実施 例に展定されるものでなく部付の歳求の範囲に基いて多 ルパルーンカテーテル装置を除去し、前記機ぎ木に第! の郵張リングリテーナーを挿入する方法が提供される。 図面の簡単な説明

本発明の特徴は以下の抵付図面により良く理解される。 第1回は継ぎ木に組込まれるダブルパルーンカテーテ ルシステムを用いた本発明の大動脈椎ぎ木の症状疑合の 拡大図である。

第2回は本発明の好適実施例の取付け装置の拡大図である。

第3回は血管の径を測定するため動脈瘤の上の血管の 頭部に挿入されたパルーンカテーテルの定状図である。

第4回は血管の径を測定するために動脈瘤の腹部大動脈の尾部に挿入された投影剤が満たされたパルーンカテーテルの冠状図である。

第5回は腹部大動脈に挿入され大動脈椎ぎ木の頭部及び尾部がそれぞれ動脈瘤の上部及び下部の頭部及び尾部と整合する本発明の椎ぎ木とダブルバルーンカテーテルシステムの冠状図である。

第6図は頭部パルーンが影張するときの取付け装置の 血管壁への挿入を示す挿入された機ぎ木及びダブルパル ーンカテーテルシステムと動脈瘤上の頭部腹部大動脈の 狂状図である。

第7日は取付け装度が動脈壁を貫通したときの頭部パルーンの展張中の状態を示す第6日の推ぎ木と頭部パルーンの最状図である。

くの変更が可能である。

実施例

第1 図は腹部大動脈瘤1 2 を治療する大動脈維き木手段1 0 を示している。第3 図に示されるように、大動脈瘤1 2 は腎動脈1 5 と腸骨動脈1 6 との周の腹部大動脈1 1 に位置している。

本発明の大動脈維ぎ木10も抵付請求の範囲において他の位置をとれることは当業者にとって自明である。例えば維ぎ木は身体の他の部分または他の管に位置する動脈のような液体を遅過させる管にも用いることができる。

実施例に示されるように、本発明の大動脈維ぎ木袋健10は頭部19、尾部20な及び本体21を有する大動脈維ぎ木18を有している。本発明の大動脈維ぎ木18は、好ましくはテフロン(ポリテトラフルオロエチレン)等の可能性、弾性材料や他の同様に可提性、弾性を育する材料からなる。天然または人口のポリマー材等の材料(ポリエステル繊維、ダクロン、マイラー、レーヨン、セルロースアセテート、セルロースブチュート)も使用できる。大動脈維ぎ木18を構成する材質は生化学的に不活性であり大動脈維ぎ木が埋められる組織と相性がよくなければならないことが重要である。この種の材料としては多くのものが知られている。

本発明の実施的においては、大助駅総ぎ木18は複数 のアタッチメント手段22とダブルパルーンカテーテル システム35を有している。根ぎ木は、大動脈の直径の 計画する第1のカテーテルシステム、アタッチメント手段22を育する大助駅18、ダブルパルーンカテーテルシステムである第2のカテーテルシステム、及び保持リング 45を育する第3のパルーンカテーテルシステム 48 を育するキットとして衝生的に取扱われパッケージされている。本発明の大助駅推ぎ木18、ダブルパルーンカテーテルシステム35及び第3のカテーテルシステム48は様々なサイズに形成され本発明のシステムが個個の単者の大動駅窓のサイズや形に適合するようになっている。

取2回に示されるように、本発明のアタッチメント手段22はベース手段23、支柱手段24及びファク手段25を有している。ファク手段25はチップ部26を有しておりフック25による大動駅11の通過を容易にし、やじり27を有しており大動駅11に対する取付け位置において取付け手段を弾性的に保持している。本発明の好通実施例においては、大動脈椎ぎ木18は、糠ぎ木18の頭部19及び尾部20塩に取付けられた複数の取付け手段22を輸えている。

本発明の好選実施例においてベース手段23は金属やブラスチック等の生化学的に相性のいい材料からなる。ベース23は大動脈推ぎ木18の輪の対してほぼ平行な金属性平坦小片である。ベース23は大動脈推ぎ木18の頭部19及び尾部20端に取付けられる。この取付けは、これに限定されるものではないが、接着、溶接、リ

1 2 及び尾部 1 3 の大動脈 1 4 に固定された大動脈推ぎ 木 1 8 を保持している。

大動脈椎ぎ木手段10はダブルバルーンカテーテルシステム35を介して腹部大動脈11に取付けられている。本発明のダブルバルーンカテーテルシステム35は、バルーンがふくらんだときファク25のチァブ26かほぼ平行な関係ではなく動脈11の壁に保合してファク25が本発明の大動脈椎ぎ木18を大動脈11に固定するのを容易にするように方向づけられている。

番付け、の範囲において本発明の取付け手段 2 2 の標準で取付けを操っに変更することは当業者にとって自明である。例えば支柱 2 4 のそれぞれの側のファク 2 5 の相対的な長さは変更できる。また支柱 2 4 は、支柱 2 4 の増都が大助課程ぎ末 1 8 から経方向に延びて大助駅 1 1 を通過していれば様々な形状を有することができる。またファク 2 5 は大助駅母ぎ木が大助駅 1 1 に取付けられたとき近くの器管を傷つけないように方向でけられていれば様々な形状や方向をとることができる。に取付け手段 2 2 は、大助駅 1 1 を通過しないように回転して大助駅 1 1 を単純に押えつけるように向づけてもよい。従って、本発明は、番付留求の範囲において様々な変更が可能である。

大動脈椎ぎ木手段10の動作及び取付けは、ダブルバルーンカテーテルシステム35の動作により最もよく説明できる。本発明の大動脈椎ぎ木手段の理数は多くのス

ベット、単なるベース 2 3 の位置決め等によりなされ、ベース 2 3 の末端は大動脈離ぎ末 1 8 の内腔の末端面に 当接し女性 2 4 の力により保持される。

支柱手段24は好ましくはベース23に対してほぼ函 魚な方向に向いた支柱である。本発明の好選実施例にお たては、支柱24はベース23の末均面に取付けられた 住24は、大助駅推ぎ木18に取付けられたとき大助駅 推ぎ木18から径を1年24をベース23に固着できる ですりに安定して支柱24をベース23に固着できる様 ですりに安定して支柱24をベース23に固着できる様 ですりになった、な接等の様々な手段を介して大動駅推ぎ 木18に固定できる。ベース23も大助駅推ぎ 木18に固定できる。ベース23の末端面が大動駅推 ぎ木18に固定でき、ベース23の末端面が大動駅推 ぎ木18の内腔基場面に当接し、支柱24は大動駅推 木18を通過する。支柱24の基端にかかった力によりベース23と支柱24が保持される。

本発明の好選実施例においては、ファク手段 2 5 は支 住 2 4 の末週に取付けられたファクである。ファク 2 5 はベース 2 3 に対してほぼ平行であり、従って大動賦 1 1 に取付けられたとき大動脈継ぎ木 1 8 の触線に平行 である。本発明の好選実施例においては、チァブ 2 6 が 位置するファク 2 5 の手の部分はチァブ 2 6 からのファ ク 2 5 の燭部よりも支柱 2 3 からの長さが長い。さらに ファク 2 5 は取付け手段 2 2 を保持する 1 つ以上のやじ り 2 7 と大動脈瘤 1 1 の上下における段部動脈の頭部

テップを有している。まず大腿大動脈 1 7 または勝骨大 動紙16に切込みを入れ、大動脈増12に接近する。事 3図に示すように、本発明による好迹実施例においては、 第1のパルーンカテーテル装置28は大動駅11のある 重要な特徴を計測する。実施例におけるように、 第1の パルーンカテーテル28はガイドワイヤ29、パルーン 30、供給チューブ31、第1のパルーンカテーテルシ ース32及び投影荊33を有している。ガイドワイヤ 29は第1のカテーテル装置28で大腿大動脈17また は脇骨大助脈 1 6 の切込みを介して挿入される。 パルー ン30は電波投影剤33で満たされており、電波映像手 段で可視化する。カテーテル装置28は、そのパルーン 30が腹部大動脈 11の動脈瘤 12に挿入されるまで大 題大動脈!7または脳骨大動脈!8の閉口に供給される。 電波映像システム34を用いて、パルーン30は動脈瘤 12の上の腹部大動脈11の頭部13と整合される。バ ルーン30は、動脈瘤12の直上の腹部大動脈11の頭 部13の内面と保合するまで膨張される。映像袋属34 は大動脈瘤の上の腹部大動脈の頭部の径を測定する。

る限部動脈11の後を測定する。この計測値は記録される。映像装置を介して集められたデータを用いて腹部大動脈13の頭部i2と腹部大動脈11の尾部i4との間の距離が動脈磨12の上下において大動脈11の頭部 ・3と隔部:4の後と同様に決定される。この情報を用いて患者の大動脈推ぎ木装置10の進当な大きさが選択される。

実施例に示されるように大動脈推ぎ木18は映像装置34により決定された腹部大動脈11の頭部13及び尾部14の間の距離よりも好ましくは2~100mm 及びなっている。本発明の大動脈推ぎ木袋変10は大動脈推ぎ木谷変で10は大動脈推ぎ木谷変で10は大動脈推ぎ木谷変で10は大力テーテルな置35を育している。ダブルバルーンカテーテル35の尾部パルーンステム35を育している。ダブルバルーンカテーテル35の尾部パルーン36の塩37と末塩38に設けられている。第50粒のボルーン36の塩37と末塩38に設けられている。第50粒のボルーン36の塩37と末塩38に設けられている。第50粒のボルーン36の塩37と末塩38に設けられている。第50粒のボルーン360粒のボルーン360粒のボルーン360粒のボルーン360粒のボルーン360粒のボルーン360粒のボルーン360粒のボルーン360粒のボルーン360粒のボルーン360粒のボルーン360粒のボルーン360粒のボルーン360粒のボルーン360粒のボルーン360粒のボルーン360粒のボルーン360粒のボルーン360粒のボルーン360粒のボルーン360粒のボルーン360粒のボルーン360粒のボルーン360粒のボルーン360粒のボルーで大動脈11の尾部11を変合する。

頭部バルーン36はここで郵張される。 第6図に示すように頭部バルーン36は頭部バルーン36の蟷部38から駆張され始める。頭部バルーン36の末端38が駆

平 8 図に示されるように大動駅 他ぎ木 1 8 の尾部 2 0 は尾部バルーン 3 9 の基端 4 0 における ダブルバルーンシステム 3 5 の尾部バルーン 3 9 を彫張することにより 数部大動駅 1 1 の尾部 1 4 に取付けられる。尾部バルーン3 9 の基稿 4 0 が彫張されると、大動脈 継ぎ木 1 8 の尾部 2 0 の取付け装置 2 2 が頭部 1 9 に対して上述のように回転し継ぎ木 1 8 の尾部の取付け装置 2 2 が第 9 図に示されるように披部大動脈 1 1 の尾部 1 4 に永久的に取付けられる。

第10回に示されるように頭部パルーン36と尾部パルーン39とが完全によくらまされると概ぎ末18は腹部大動駅11の上下に位置する。このとき難ぎ末18の頭部19及び尾部20によりさらに上下の血液が動脈瘤11に効果的に達しないようにしている。雑ぎ末18の本体21は動脈瘤12の腹部動脈 登11として働く。第10回に示されるように概ぎ末18が腹部大動脈11の頭部13と尾部14とに完全に位置するとダブルパルーンカテーテルシステム35は取除かれる。大動脈避ぎ末18は腹部大助脈11を領理する金圧力及びストレスを取除く。

本発明の好選奨施例において大動駅継ぎ木袋置 1 0 は 保持手段 4 5 を育している。保持手段 4 5 は大動駅 1 1 に継ぎ木 1 8 を保持する弾性リングである。実施例にお いてはリテーナー 4 5 は本体 4 6 とロック手段 4 7 とを 張されると当接した取付け手段 2 2 が回転し、レース2 3 の末端が大動脈椎ぎ末 1 8 の軸棒から径方向外側に移動しベース 2 3 の基端部は大動脈椎ぎ末 1 8 の輪棒が 5 代換る。この回転によりフック 2 5 の先端部 2 6 が設部大動脈 1 1 に対してほぼ非平行になる。頭部バルーン3 6 がきらに郵張するとチップ 2 6 は腹部大動脈 1 1 と 通過しフック 2 5 が大動脈壁 1 1 内に延びる。やじり 2 7 が腹部大動脈盤 1 1 を通過しての外壁面に位置する。

有している。第11回に示されるように本発明の好適実 施例においてはリテーナー 4 5 は割りリングの 2 つの様 がスムーズなリングを形成するように形づくられた割り リングである。

類求の秘密において本発明の取付け装置22の構造及び取付けには多くの変更が可能である。例えばリテーナー 45 は第12回に示されるような弾性メッシュ材であってもよい。メツシュ材の本体 46 は好ましくは互いに取付けられるレッグを有しておりメッシュ材は挿入用に折りたたみ可能であり一旦取付けられ趣語されるとロックされる。従って本発明は請求の秘密において多くの変更例が可能であることは明らかである。

第10回に示されるようにダブルバルーンカテーテル35が腹部大動脈11から取除かれるとガイドワイヤ29は残ったままである。第13回に示されるようにリテーナー45は第3のカテーテルシステム48を用いて腹部大動脈11に挿入されると映でなで、18に対して明テーナー45の位置を追称する。はのではないないでは、19と大動脈は後で、19に対して明テーナー45の位置を追称する。はかいた、19が発達される。頭部バルーン49が脱過される。頭部バルーン49が脱過される。頭部バルーン49が脱過される。頭部が発生である。バルーン30が完全に膨らみリテーナー45が完

全に駆扱すると、リテーナー 4 5 は大動脈推き木 1 8 と 大動脈 1 1 とを駆扱させ大動脈維ぎ木 1 8 と取付け装置 2 2 を腹部大動脈 1 1 の頭部 1 3 に押付ける。

第14日に示されるように尾部パルーン50は節型されリテーナー45を大動脈群等本20の尾部と大動脈 14をロックする。第3のカテーテルシステム48はガイドワイヤ29にそって取除かれる。手術が行なわれた大脳大動脈 17または場合大動脈 16の切込み部は閉じられる。下肢の循環は回復され大動脈群ぎ末18が循環から大動脈層 12を除去する。

本発明についてはなな変更が譲求の範囲において可能なことは当業者にとって明らかである。特に大助解散ぎ 木装置 1 0 はリテーナー 4 5 とともに用いても用いなら 7 でもよい。リテーナー 4 5 は様々な保合及びサイズを育し大動脈を育している。取付け装置 2 2 もその形状について請求の範囲内において多くの変更が可能である。さらにダブルバルーンカテーテルシステム 3 5 のそれのバルーンが彫らまされる方向は取付け装置 2 2 がバルーンの頭部 3 6 尾部 3 9 の節張方向に対して方向づけられ大動脈 1 1 の通過が容易にできればよい。従って来明は頭求の範囲において多くの変更例が可能である。

FIG. 3

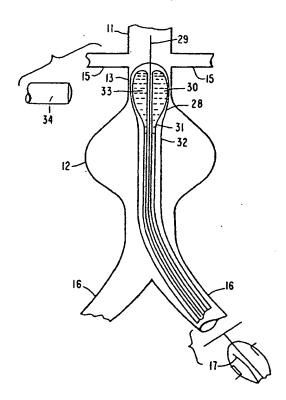


FIG. I

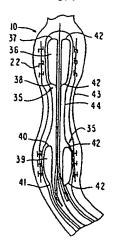


FIG.2

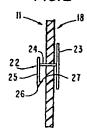


FIG. 4

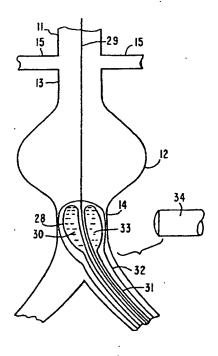
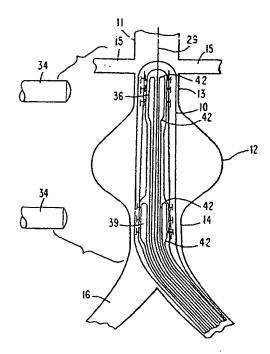


FIG. 5





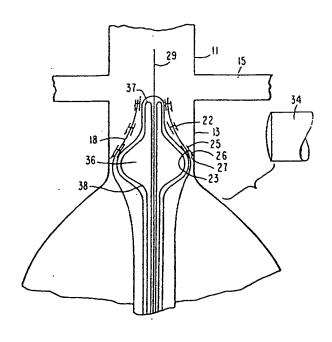
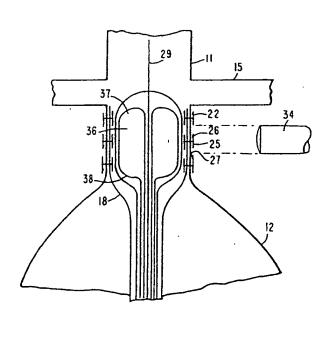


FIG. 7



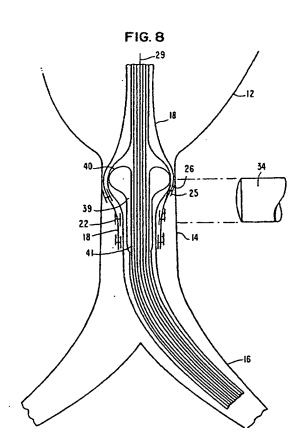


FIG.9

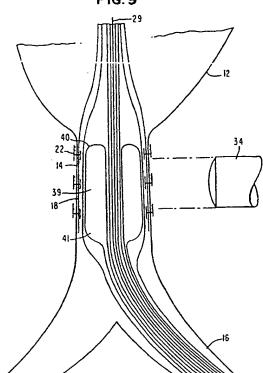


FIG. 10

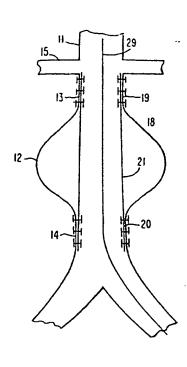


FIG. 11

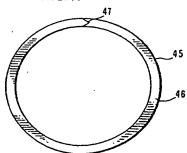


FIG. 13

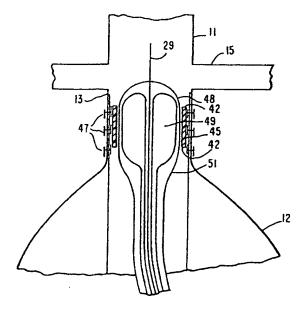


FIG. 12

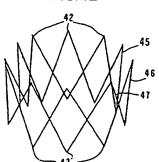


FIG. 14

29

20

22

18

42

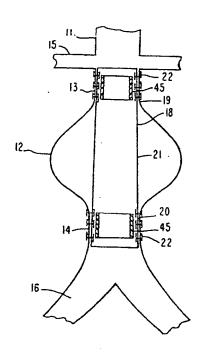
45

45

47

51





PUSTNES INTO PRATION CONTINUES FROM THE SECONS SHEET
ļ <u>i</u>
'
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
<u> </u>
! <u>!</u>
T TO DOSIDVATIONS WHEN CIPTAIN CLAMS WING FROM WHILLACHARLE.
The administration to be to the new new news needs for a new part of the second state of \$150 test the two telescopes and a final state of the second state of the sec
It relates to a method of treatment of the human body by surgery
or therapy; see PLT Bule 39.1(iv).

2 Com reference de la company
could be done on solver man be designed ordered and to take to be broad and ", sould be say."
S Commenters the comment of t
TI DESERTATIONS WHERE MINITY OF MUSETION IS LACKING!
·
The mercanical Brancains Australia (spins makeus amenings of the menings-out restrance on liptons .
A an extraord total distant
At one many of the requiring appropriate beings have every failed, that for the oppositions the depositional access places process only made (about the contract of the contra
-
• [] 4.5
o the terretain complete the second of the s
Rymon on Present The addresses stated lates were addressed by opportunity pages.